

高温期に良好な生育を維持するためのヒロハセネガの播種時期

～ヒロハセネガの播種適期～

ヒロハセネガは、原料とする市販薬が数多くあり市場での需要が多いことから、宇陀地域でも栽培が試みられています。しかし、夏季の高温期に生育が緩慢になり茎葉が枯死する問題が生じています。問題解決のために播種時期を検討した結果、3月15日頃までに播種することによって高温期に良好な生育を維持できることが確認できました。

1. 背景と目的

ヒロハセネガの根は、乾燥して生薬として使用されており、使用量の約80%が国内で栽培されています。去痰・鎮咳などの効能があり、咳止めシロップなどに含まれ、根を利用する他の薬草と比較して、根の掘り上げが容易であり高単価で取引されるため、近年、宇陀地域において栽培が試みられています。しかし、慣行の3~4月に播種する作型において、夏季に生育が緩慢になり枯死する株がしばしば見受けられることから、高温期に良好な生育を維持するための播種時期を検討しました。

2. 研究成果の概要

栽培試験は大和野菜研究センターのほ場で行いました。2022年に採種したヒロハセネガの種子を2023年3月5日、15日、25日、4月4日、14日に、20粒ずつ播種しました。20cm以上伸長した茎数を7月11日と8月25日に調査しました。

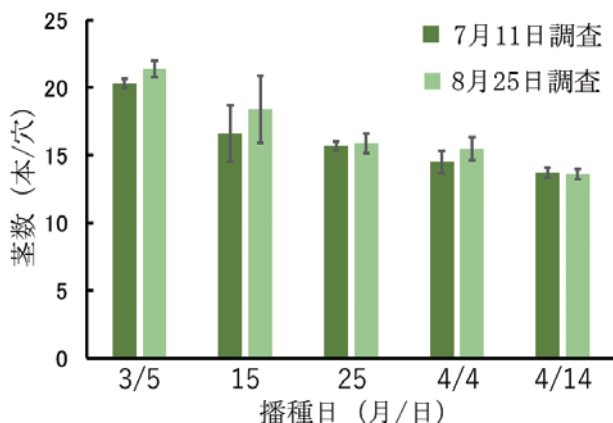


図1 マルチ穴あたりの茎数
(20粒/穴播種、16マルチ穴×3反復)
縦棒は標準誤差を示す

3~4月播種の作型では播種時期が早いほど茎数が多くなりました(図1)。8月下旬の生育について3月5日播種区と4月14日播種区を比較すると、3月5日播種区では旺盛な生育で茎葉がマルチ上面を覆っているのに対して、4月14日播種区では生育が緩慢で、茎葉の枯れが目立ちました(図2)。3月5日播種区では十分生育した株が夏季の日射を遮り、地表面あるいは地中の温度上昇を抑えたことによって、高温期の生育を維持できたと推察されます。前年の試験においても同様の結果が得られていることから、良好な生育を維持するためには、播種は3月15日頃までに行う必要があると考えられます。



3月5日播種区 4月14日播種区

図2 8月下旬の生育状況

3. 実用化に向けた対応

夏季に十分な株張りを確保することによって、高温期でも良好な生育を維持できることは確認できましたが、前提として発芽率の高い種子を確保することが重要です。今後は採種条件や種子の保存条件を検討して、ヒロハセネガの生産安定に貢献したいと考えています。

(大和野菜研究センター 浅尾浩史)